

支援活動だより

「だから生きる」

支援活動担当（けせん地域） 飯塚郁子

秋から冬にかけて取り組んだ署名が、目標の10万筆を達成できたとのこと、本当にホッとしています。自分の身に起こったことでなければなかなか理解できないのが本当だと思いますが、これから起こるかもしれないことへの備えとして考え署名して下さった方が多かったのではないかと思います。ありがとうございます。

今回は、私が毎週提出している報告書から、生きることに思いを巡らせた例を紹介します。

いつもお元気な88歳のおばあちゃんが、何度も「みんなに良くしてもらって、いつも親切にしてもらって本当にありがとう」とおっしゃいます。また、「もう永代供養は済ませたんだ。気仙沼にお墓があるといつでも行けるわけじゃないしね。でも、オラはもっと生きてなきゃなんないの。だって息子を拝む人がいなくなるからね。オラが拝んであげなき

ゃ息子がかわいそうだべ。だからもっと生きるの」とも。

自治会長さんに聞くと、寒くなってからは外に出るのがおっくうになったようで、いつもこたつに入っているとのこと。また、エアコンは使い方が分からず全く使っていないため、こたつだけが暖を取る手段だという事です。何度か教えたものの、冷房と暖房の切り替えや設定もわからないと言うそうです。高齢の方には使いづらいものなのでしょう。4畳半にこたつを置けば布団を敷くスペースがないので、そのままこたつで寝ているとも話していました。

高齢の方にとっての3年9カ月は長いもののだと改めて感じました。一日一日自分の体調を気にしながら、ともすると落ち込みそうになる気持ちを必死でこらえているのだと思います。（報告書より抜粋です）

支援活動 支援制度拡充を求める署名、10万9千筆！

10万筆を目標に取り組んできた「被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める署名」が、12月22日ついに10万筆を超えました！こ～ぷ委員のみなさんお一人お一人のがんばりの結果だと思えます。ご協力、ありがとうございました。

この署名は現在、岩手で14万筆、全国で51万筆が集まっています。2月の通常国会へ提出するため、現在岩手県選出の国会議員のみなさんへ、紹介議員をお願いしています。お手元にもし署名がありましたら、1月中に組合員活動チームへお送りください。



Kのつぎやき

「リトル・ミーの名言」

2014年は「ムーミン」の生みの親、トーベ・ヤンソン生誕100周年だった。子供の文学と思われがちな「ムーミン」シリーズだが、大人になったからこそみ取れる人生の示唆に富んでいる。登場人物の「リトル・ミー」はいたずら好きで毒舌家だが、憎めないキャラクターだ。

リトル・ミーの名言集より。

- ❖時々、誰かに言われた言葉がチクツとするときあるじゃない。それね、本当のこと言われてるからよ。
- ❖自分と向き合うにはひとりになるんじゃないわ。いろんな人と関わりあうのよ。自分の知らない、自分を知らない人たちと関わりあうのよ。見えてくるわよ、本当の

自分が。

- ❖そうね、明るくしているほうが楽しいわね、明るい人にとっては。けど、暗い人には疲れちゃうわね。だからね、楽しくするってより、楽にする。なのよ。
- ❖新しい生活、その不安ね。大丈夫よ、全然、大丈夫よ。いま考えてもしかたないじゃない。何かあったらその時に考えればいいのよ。本当にそんなものよ。それで意外とうまくいくのよ。

新しい年、ミーの名言を心に刻んでスタートです！（K）

